

## 報告(1) 生と性のカリキュラム推進

「メディア社会の中で親子のコミュニケーション力を高めるための方策について」

&lt;前回の意見と対応&gt;

委員からの提案、指摘事項等	対応
4か月健診の場を通して「メディア社会の中で親子のコミュニケーション力を高めるための方策」を伝えていくこととする。	ブックスタートボランティアを対象に親子のコミュニケーション力を高めるためについて伝えていく。 なぜ、4か月の赤ちゃんにブックスタートなのか、 <u>なぜ読みきかせをはじめとした直接的なコミュニケーションだと赤ちゃんに笑顔が出るのか、反応がよいのか等</u> を伝えていく。 今後は、乳幼児に特化して伝えていくということではなく、他機関とも連携を深めて、各年齢の子どもたちとその保護者や祖父母世代にも伝えていきたい。

&lt;今後の取り組み&gt;

1) 地域において、親子のふれあいの大切さを発信し、自己肯定感の醸成に影響できる人となりうる人を増やしていく。

【対象】ブックスタートボランティア

(直接赤ちゃんの反応を見ながら、母親と接することのできる人)

【時期】25年3月ごろ

【内容】

## ①小牧市の乳幼児の現状

就寝時間、朝ごはん、テレビ・DVDの視聴時間

(平成23年度小牧市乳幼児健診問診票より)

## ②子どもの育ち(愛着形成について)

毎日の親子のかかわりの中で、人との信頼関係を築き、自己肯定感を育てていくこと、それが自分や相手を大切にできる心や社会性を育む基盤となることを伝えていく。

(自己肯定感獲得DVD「みんなちがってみんないい」を活用)

## ③多様化するメディアが子どもの育ちに与える影響

テレビ・DVDだけでなく、携帯用ゲーム・テレビゲーム・携帯電話・パソコンと、一昔前と比べると多種多様なメディアが生活の中に入り込んでおり、また、子どもたちが低年齢のうちからそれらに曝される環境にあることを伝える。

## ④読みきかせをはじめとしたかかわり遊びの大切さ(メリット)

読み聞かせをはじめとしたかかわりあそびが、子どもにとってよい影響を与えることを伝える。

## ⑤かかわりの遊びの大切さを広めていただく。

どのような声かけがよいかをグループワーク等で導き出す。